

Title	吉村先生をしのんで
Author(s)	原田, 篤己
Citation	経済論叢 (1966), 97(2): 246-247
Issue Date	1966-02
URL	http://dx.doi.org/10.14989/133110
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

經濟論叢

第九十七卷 第二號

哀 辭

故吉村達次教授遺影および原稿

国債発行と金融政策	中 谷 実	1
アージリスの組織理論 (1)	田 杉 競	16
貸借対照表という用語の創出過程	高 寺 貞 男	30
独占価格と生産価格	松 石 勝 彦	51

記 事

吉村教授逝く

追悼文 (池上 惇 林 直道 松井 清)

追憶談 (坂寄俊雄 稻垣 武 原田篤己)

故吉村達次教授略歴・著作目録

昭和四十一年二月

京都大學經濟學會

吉村先生をしのんで

原 田 篤 己

吉村先生が突然亡くなられて、私達ゼミ生は大きな心の支えを失ったような気持ちです。今、ゼミ生を代表して、またゼミ生の1人として、私達の悲しみと先生に対する深い尊敬と感謝の気持ちをのべてさせていただきます。

私達は1年あるいは2年間先生のもとで教えを受けてきました。今ふりかえてみるといろんなことがありましたが、とても短くして早く過ぎてしまったような気がします。もっともっと先生から多くのことを学び、一緒にお話ししたかったのです。それで

も先生といっしょに勉強したこの間に、先生に尊敬と同時に親しみを感じ、特に先生の素朴で快活な笑顔と笑い声が強く私達の心に残っています。それを思い出すと心が暖まってきます。

先生の専攻は恐慌の理論的研究でした。私達のゼミではこの1年はヒルファディングの「金融資本論」を勉強しました。私達がまず報告し討論を始めます。先生はその間黙ってきいておられますが、一度質問をするとたいいてい先生のお話は長くつづきました。先生は質問に関連した大切なことを話して下さったのですが、私の方はまだほかにもわからないところがたくさんあるのにとやきもきしていたこともありました。また先生はよく事実やご経験と結びつけて理論を説明して下さいました。それを通して私達は正しい学問の方法を学ぶことができたと思います。私達は経済学の第一歩をふみだしたばかりですが、この時に先生のご指導をえたことを心から嬉しく思っています。

私達にとってゼミの時間は楽しいものでしたが、そのほかコンパの時のことが楽しく思い出されます。私達のことを気にかけてくださり、また先生ご自身もお好きだったのでしょうか、よく先生の方から「コンパをしよう!」といわれました。なかでも先生のお宅でコンパをした時には、暖かい家庭の雰囲気の中で私達の心はやわらぎ元気づけられました。またインゼミに向けての勉強で私達が疲れていた時、先生は南禅寺に湯ドゥフを食べに連れて行って下さいました。私はこれらの楽しい思い出と先生のやさしいお心をいつまでも大切に覚えていたいと思います。

今度先生が教授になられて私達は嬉しく思っていました。そして先生が一日も早くよくなられて、またご一緒に勉強できる日を楽しみにしていました。来年度は多勢の新3回生が吉村ゼミに来ることになっていました。先生がなくなられて私達は今悲しくてじかたがありません。でも先生の御恩にお答えするためにも、今まで先生から学んだことの上に、さらに学問し真理を探索していく決意です。

先生、どうぞ私達を見まもっていてください。